



「早く独立して自分のお店を持ちたかった」と話すように、早くから自分のお店のイメージを持っていたそう。男性が通えるバーバーだが、美容室に通っていた人も抵抗なく入れるように、いわゆる理容室というよりも美容室に近い雰囲気。店内に置かれている調度品なども関さん自らがネットやアンティークショップを巡って購入したというハイセンスなアイテムが並ぶ。「これがさらに時間が経てくるとさらに、いい味になってくると思うので、お店の成長とともに変化していくのも楽しみです」

YOKOHANA, KANAGAWA

STANDARD

スタンダード / 神奈川県横浜市

美容室には入りづらいけど、町の床屋さんでは正直期待できない。そんな悩めるオシャレ好きな男性のためのバーバーが「スタンダード」だ。居心地のいいハイセンスな空間と、確かな技術が生み出すスタイルは、「バーバーに通うことがカッコイイ」という新しい理容のスタンダードとなる。

Photo/H.Yoda 依田裕章 Text/M.Terano 寺野正樹



東 急東横線の綱島駅から約5分ほど歩いたところにある「スタンダード」。木を基調とした外観。そして、バーバーの目印でもあるサインボールも店内に飾られているので、一見すると美容室のよう。「それも狙いなんです」と、話すのはオーナーの関邦彦さん。2年前、若千28歳で独立開業した。「美容室っぽい雰囲気にしたほうが、気軽に足を運んでももらえるかなと。そして、来てくれたお客さんを良く仕上げることで、それを見た人たちが『バーバーに行くこともカッコいいな』と思ってもらえるといいですね」

お店は南フランスの田舎をヘイスに、インダストリアルな雰囲気を融合。置かれた調度品やスイッチカパーなどのさり気ない所にもヴィンテージモノを使うなどこだわりが満載。

もちろん雰囲気だけでなく、以前は制服を着た「いわゆる理髪店」に勤めていたそう。自衛隊の近くだったこともあり、シヨートスタイルなど、スタンダードなカットは得意とのこと。

そんな関さんがもうひとつ推したいことがある。それが「ヒゲ文化の確立」だという。「その人の顔に似合って、かつ、会社やフォーマルの場所でも通じるヒゲのスタイルというのも提案していきたいです」

こうした若い世代のムーブメントから次世代の「スタンダード」が生まれると信じて、関さんはお客さんと対峙する。



バーバーに行くことが
カッコイイことだと
思ってもらいたい。



1.店内奥の棚。エイジング加工された壁に、味のある板、そして、キャストアイアの棚受けが欧風の雰囲気を醸し出す。あえてあまり物は置かないのがシンプルでいい。右側の壁も「単に壁紙を張るだけにはしたくなかったので、レンガ風にしました」 2.濃いグリーン系でエイジング加工されたカウンター。無機質な電球の傘との雰囲気もいい。3.店頭に掲げられたメニュー表。カットが3800円と良心的な価格設定



Shop data

STANDARD

神奈川県横浜市港北区綱島西2-14-1 TEL045-642-4569
11:00~21:00 月曜、第3火曜定休

カット（一般）3800円、シェービング（カットにプラス）500円、ヒゲデザインシェービング3000円。初回来店のお客様はシェービング無料、もしくは合計金額より10%OFF

右／シャンプー、リンス類は頭皮に優しい「ジョンマスターオーガニック」を使用。3が改善される。その人のよさが自然と表面へと出てくるはずなので、ヘアデザインはもう、頭皮や皮膚のケアに力を入れていきます。ヘッドスパやヘッドマッサージ、希望すればマイクロコースプを使った頭皮・頭皮のケアも提供される。左／ライナーの手動バリカン。さすがに使うことはないが、インリアルマとして活躍



通常、4本の手サミを使い分けるそう。長いものだ10年以上というモノも。「メーカーとか特にこだわってないんですが、使い慣れているモノがいいですね。どれも長い間、研いで使ってます。こういう細かい道具にも心を配るといのが職人なのかなとも思います」

以前、自衛隊の近くの理髪店で働いていたこともあり、ショートスタイルが最も得意だという。現在は、近所のお客様も増えてきたが、開業当初は「パーバーと思ってもらえないことも多くて、馴染むまでには時間がかかりましたね」



Part.2

オーガニックと無機質さが絶妙に入り交じる。



「南仏の田舎」をテーマに、電球の傘や天井のダクト、コンセントカバーなど、随所にインダストリアル感をミックス。パーバーらしくらぬハイセンスな空間